橋梁点検支援技術特集

近畿道路MC

点検支援技術の発展に期待

予防保全型への転換は道半ば

近畿地方は大阪・神戸などの日本有数の大都市、京都・奈良などの古都、紀伊半島や丹波地方などの急峻な山々など、幅広い姿を持つため、その分、橋梁も築造年、形式、材種など様々な特色を持つ。今回は近畿地方整備局近畿道路メンテナンスセンターの中口和巳センター長にインタビューを行い、管内の新技術の活用状況や地方公共団体への支援状況などについて聞いた。（塩野耕生）

国土交通省　近畿地方整備局
近畿道路メンテナンスセンター長
中口　和巳氏

近畿地方整備局が管理する直轄国道の橋やトンネルについて、他の地方整備局のメンテナンスセンターとは少し異なり、引き受けて行っています。このため点検・診断を通じて出される技術的評価は、その判断基準などにばらつきが生じず、整合性が図れたものとなり、強みになっていると考えます。橋梁の点検・診断で得られたデータを管理・分析し、各国道事務所の修繕計画に結びつけています。

もうひとつは、地方公共団体の支援です。

インタビュー

——近畿道路メンテナンスセンターのミッションについて

中口センター長　高度経済成長期に集中的に整備された社会インフラは、建設後50年以上経過しており老朽化が進んでいく中で、それらは大規模修繕を要する恐れがあり、その数が多いと予算的、時間的に対応が難しくなります。このためメンテナンスから、損傷が大規模な修繕に至らない比較的軽微で、不具合が発生する前に修繕などを行う予防保全を努めていく必要があります。

2012年に発生した「笹子トンネル天井板崩落事故」を契機に、橋梁やトンネルなどの道路構造物を対象とした定期点検・メンテナンスへの転換を図っています。

こうした中で、近畿道路MCでは大きな2つの取り組みを行っています。

ひとつは「直轄国道の橋梁などの施設関係」でメンテナンスを推進していくため、20年4月に近畿道路メンテナンスセンターを設置しました。

現在、国土交通省では「予防保全型」への転換を目指し、25年度までに活用した点検支援技術は30技術で、活用回数は延べ約500回となっています。

活用回数が増えたことにより、原則活用となった24年度から2年間で1100回以上活用していくことを目指しています。

近畿道路MCの新技術活用状況（その2）

点検支援技術デモンストレーション（ドローン）

——ドローンや新技術を用いた橋梁・診断の高度化について

中口　国土交通省における新技術の活用状況について、25年度までに活用した点検支援技術は30技術で、活用回数は延べ約500回となっています。

点検の高度化・効率化を推進するため、22年度より原則点検支援技術を活用しています。

——機齢100年近い橋梁への技術的助言などは、20年から点検支援技術の具体的事例

中口　近畿地方整備局管内の橋梁（直轄以外も含む）のうち、機齢100年以上のものは225

新技術の活用は年100回超

市町村で点検支援技術を実演

——地方公共団体への技術相談窓口、研修・講習会を通じた技術支援について

中口　地方公共団体への技術支援として、いくつかの取組をしています。

まず「技術相談の受付」です。技術相談の仕方として2つあり、ひとつは「技術相談会」で各府県の道路メンテナンス会議を通じて相談案件を募集・解決に向けて支援していくものです。

もうひとつは「技術相談メール」で、メールや電話などで技術相談を受付、25年度は1件の相談がありました。

「地方公共団体職員を対象にした講習会、研修会」を、年2回開催しています。今年も9月9日に第1回を開催します。

直轄診断・修繕代行について、要請を受け、緊急性などを考慮して、近畿地方整備局独自の取組として、橋梁点検支援技術の活用が進められています。

——付言して

中口　人口減少、少子高齢化が進む中、いかに技術の向上を目的とした「スキルアップ研修」を、年2回開催しています。

今年も9月9日に第1回を開催しています。

直轄診断・修繕代行について、要請を受け、緊急性などを考慮して、近畿地方整備局独自の取組として、橋梁点検支援技術の活用が進められています。

——付言して

中口　人口減少、少子高齢化が進む中、いかに技術の向上を目的とした「スキルアップ研修」を、年2回開催しています。

今年も9月9日に第1回を開催します